

参院選に見る有権者意識と日本の政治の課題

慶應義塾大学法学部教授
小林良彰こばやしよしあき

- *総論賛成各論反対のシリア軍事介入
- *まだ広がりやを欠く自民党支持
- *国民の関心は社会保障と景気
- *官邸が官僚を動かすことに成功
- *内閣官房参与が重要な役割
- *今のままでは野党の展望は開けない
- *各論突破には司令塔が必要
- *成長につながる構造改革は可能か
- *日米関係の強化が最重要



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日も暑いですが、明後日から9月ですので、頑張って講演会も続けてまいりますのでよろしくお願いたします。

今日は、慶應義塾大学、それから横浜国大でも教鞭をとられ、また内閣府でもご活躍されていますらっしゃる小林先生においでいただきました。小林先生には東洋経済ではいろいろお世話になっていますが、経済倶楽部は今回初めてです。

先ほど伺いましたら、博士論文の中で日本で初めて計量政治学をおやりになったということですね。政治の世界でも、やはりデータ、数字の解析は重要で、そこからいろいろなことが見えてくる。今日はそういうこともお聞きできるし、最新の、少々生臭い話も伺えるのではないかと

思っております。それでは先生、よろしくお願いたします。（拍手）

小林 ご紹介いただきました小林でございます。お招きいただきありがとうございます。

こちらの経済倶楽部は戦前から80数年続いているということ、たいへん光栄に思います。私の亡くなった父親は同じ慶應出身ですが、理法学部という、今の経済学部を卒業しまして、私が「法学部で政治学をやりたい」と言ったら「そんな怪しげな学問はやめておけ」と言っておりまして。私は高校生当時、なんとなく父親と同じところは嫌だと思っていたのです。しかし今日、経済倶楽部にお呼びいただきました。きっと父親にもやっとな納得してもらえるかなと思っております。（笑）